

北九州市響灘ビオトープ 第1回指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 10:00~12:00
- 2 場 所 西日本総合展示場新館302会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 小島構成員、中島構成員、堂野崎構成員、
上野構成員、御園構成員
(事務局) 環境局グリーン成長推進部環境保全担当課長、
環境局再生可能エネルギー導入推進課企画調整係長
環境局グリーン成長推進部自然共生係職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置付け及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 募集要項等について事務局より説明
(事務局) 数値目標を来園者数年間 18,000人、エコツアー参加者数 4,500人と設定している。

- 各企画提案書について事務局より説明
(事務局) 事前に配布した資料を確認。

- 応募団体より提案概要に関してヒアリング
(構成員) 市が求める数値目標を上回る目標値を提案されているが、達成するために何をするのか？
(応募団体) 協働する、連携する団体を増やし、一緒に活動することで利用者増に繋がっていきたい。
(構成員) 仕様書で定められたターゲットの1つである大学生と企業に対するアプローチが弱いのではないか？
(応募団体) 共同事業体を構成する団体の代表が大学教員であり、所属する大学から留学生が来園する等の実績がある。
また、企業とは外来種駆除等で連携している実績がある。
(構成員) 前回の期間から続けての応募になるが、運営上の課題はあるか？

- (応募団体) 植生管理に課題を感じている。外来種のセイタカアワダチソウや在来種のくずの繁茂への対応がある。現場スタッフだけでは対応出来ない規模になっているため、企業との協働や環境省の交付金等の外部資金獲得等の工夫をしていきたい。
- (構成員) 生物多様性の啓発や希少種の状況の発信等の説明がなかったように思うが、説明をしてほしい。
- (応募団体) 施設の根本にある重要なところと認識している。非常に難しいという認識も持っており、試行錯誤しながら、体験活動を通じた啓発や SNS を通じた間接的な普及啓発等、色々な側面から尽力したい。
- (構成員) 響灘ビオトープの何より素晴らしいところは、埋立地（廃棄物処分場の跡地）にこれだけの多様性が再生したこと。ネイチャーポジティブの非常にいい事例である。もっと発信していいと思う。また、肝心の生物多様性が劣化しないように管理計画が策定されており、計画に沿った手入は重要である。TNFD で企業の中にも生物多様性の活動に貢献したいというようなことはどんどん出てくると思う。
- (構成員) 異分野の公園との繋がりについてどう考えているか？
- (応募団体) 来園者にビオトープはどちらかという特別な環境と伝えている。身近なところに都市公園、街区公園があり生物の棲み処や休憩場所になっているので、身近な環境を見てくださいと話している。そこから、その公園に対する行動に繋がればと思っている。
- (構成員) 提案にグリーンインフラの話も出ているが、湿地帯のグリーンインフラをどのように考えられているか？
- (応募団体) 最近の都市の洪水、内水氾濫は舗装が多くなってきたことが原因として溢れる状況が多いと思うが、草原湿地は自然災害（の予防）にも役に立つと来園者に伝えている。
- (構成員) 利用料金を50円値上げすることのデメリットをどのように吸収するのか？
- (応募団体) 利用料金については、元々100円という設定に驚く声が多かった。科学的な根拠はないが、150円になったため高いのでやめようとはならないと考えている。
- (構成員) 水生昆虫分野の調査が弱いのではないかと？北九州高校魚部の調査に任せっきりになっている印象を持っている。専門家との協働をしていった方が良いのではないかと感じる。
- (応募団体) 調査は構成団体でも実施しているが、調査結果の発信やビオトープの水生昆虫の多様性の発信が出来ていないのは欠点であった。HP での発信等をしていきたい。
- (構成員) SNS の発信が鳥に寄っているが、個々の細かい生物、マニアックな生物も含めて発信していくことが非常に重要。
- (構成員) 展示施設の内容をどうしていくか意見が聞きたい。
- (応募団体) なるべく生態展示を増やすことや動画や写真等のビジュアルで

わかる展示を心がけたい。

(構成員) 外部資金の獲得についての取組をどうしていくか？

(応募団体) 官民間問わず、適切なものがあれば応募していきたい。

(構成員) 利用者の満足度に対する目標が、期間を通して 95%以上となっているが、少しずつ改善していくという考えはないか？

(応募団体) 高いレベルで維持することを考えている。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換
 - (構成員) 実績・経験について、水生昆虫の多様性に関する取組が不足している。
 - (構成員) 理念や他の団体との連携に関する考え方は良い。
 - (構成員) 根本の生物多様性が劣化しないように取組む必要がある。

- 審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

- 審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
 - (構成員) 水生昆虫の多様性に関する取組が不足しているため一部低評価にした。
 - (構成員) 一団体の応募のため比較が難しい。

- 審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
 - (構成員) 過去の実績と比較できる資料がほしい。

- 審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
 - (構成員) 特に意見なし。

- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議
 - (事務局) 修正した結果、合計点が 88 点、地元企業による加点も含め 93 点
 - (構成員) 結果に異議なし。

- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。